

送 辞

肌を刺すような冷たい外気が和らぎ、吹く風にもいよいよ春の訪れを感じられるようになりました。先日は、日本で最も早い桜の開花が発表されました。このような佳き日に、晴れて卒業の日を迎えられた九期生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

三年間の中学生生活を終えようとしている今、先輩方の胸は、新たな生活への期待でいっぱいになっていることでしょう。その一方で、この高志中学校での長いようで短かった三年の月日を振り返っていらっしやることでしょう。今、鮮やかによみがえる様々な出来事は、お一人お一人違っているかもしれません。しかし、高志中学校で積み重ねてきた思い出のどれもが充実した、かけがえのないものだったと思います。友人とのたわいない語りも、仲間とともに励んだ部活動も、睡魔とたたかいながら必死に取り組んだ試験勉強も、その全てが先輩方の糧となっているものだと思います。

先輩方の卒業に際して目を閉じると、私たち在校生にも先輩方と共に過ごした数々の思い出が鮮明によみがえってきます。

先輩方は、学校生活の様々な場面で、私たちを良い方向へと導いてくださいました。

部活動では、何も知らず未熟だった私たちに、道具の使い方や用語などを、優しさも厳しさも備えながら指導してくださり、私たちを励ましてくださいました。その時見た先輩方の姿は、普段の学校生活では見ることのできない部分もあり、ひときわ輝いて見えました。それは今でも私の胸にとどまり続け、忘れることができません。

また、学校祭では各部門のリーダーとなって、私たちに進むべき道を示し、率いてくださいました。例えば、中学校ミュージカルでは、キャストとして表舞台に立ったのは私たち二年生ですが、ミュージカルが成功するために陰日向となって力を尽くし、活躍してくださいました。問題が発生して上手くいかなかったときに、膝を突き合わせてどうすれば解決できるのか、あれこれと議論を重ね、最適解を導き出そうと奮闘される先輩方の姿を、私たち後輩はしっかりとこの目に焼き付けました。先輩方が見せてくださる明るい表情も、頼りがいのある背中も、そのすべてが私たちの支えであり、憧れでした。

次は、私たち二年生が後輩を引っ張っていく立場として、先輩方のような存在になれるよう努めていきます。

この先、先輩方が歩まれる道には、きっと楽しいことや希望が満ち溢れています。もちろん、時には厳しく、苦しい壁が待ち受けているのかもしれませんが、どうにもならなくなったときは、足を止めて休んでもよいのではないかと思います。そこから再び立ち上がって、この高志中学校で過ごした三年間の思い出や友人、後輩、お世話になった先生方など、多くの人の思いを糧に、未来を切り開いてください。私たち在校生も心から応援しています。

先輩方が積み上げた高志中学校の伝統を受け継ぎ、私たち在校生もさらに良い学校にしていきたいと思います。先輩方のこれからのご活躍とご健勝を在校生一同、心よりお祈りし、送辞といたします。

令和八年三月一九日

在校生代表